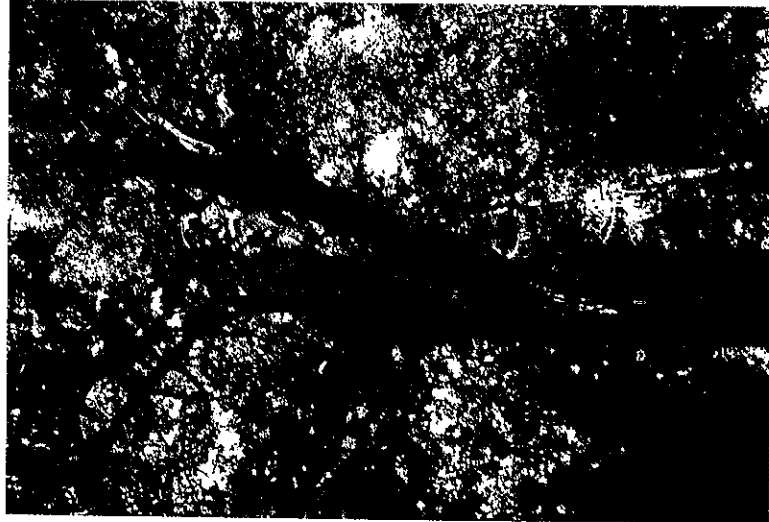


20 青木神社のスダジイ (巨木:ブナ科) 青木



スタジイは、暖地に生える常緑の高木で、材が固く丈夫であるため巨木になります。幹は黒褐色で、直立し、生長すると樹皮に縦の切れ目が入るといった特徴があります。また葉は厚く裏側が金色がかっています。6月頃、新枝の葉のつけ根から上向きに長さ6~10センチほどの穂状になった黄色の雄花を開き、甘く強い香りを放ち、昆虫がたくさん集まります。

一般に「椎の木」と呼ばれて、秋に椎の実拾いをして実を食べる木には2種類あり、スタジイとツブアラジイがあります。山陰地方にみられるのはスタジイ

で、やや細長い実です。どちらの椎も実には渋が無く、おいしいです。青木神社のスタジイは米子市内で最も大きく、幹周りが4.95メートル、樹高が18メートルあります。推定樹齢400年とみられます。



スタジイの実

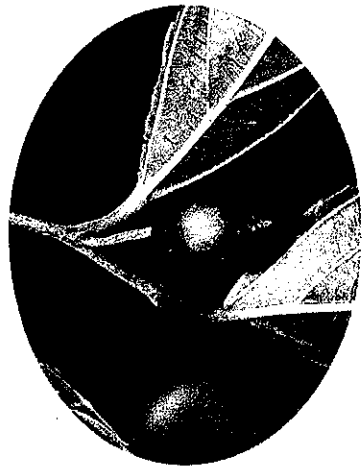
21 北平神社のムクノキ (巨木:ニレ科) 下安曇



ムクノキは関東地方以西の温暖な地域に生育する落葉高木で、生長が早いため大木としてよく見られます。ムクノキは漢字で「椋」と書きまします。木の葉がよく茂り、夏は木陰が涼しいのでこの字があられたといわれます。葉は天目茶碗の模様をつけるのに用いられます。また、葉の表面がケイ酸質で覆われているため、表面がざらざらしているのを利用して、べっ甲、象牙、漆器木地などの工芸品の仕上げの研磨に用いられてきました。秋に黒紫色に熟す実は甘くて食べられます。材は強く、建築材、船舶材などに使われます。

ムクノキは米子市内では、あまり多くは見られない木であり、北平神社のものは市内のムクノキの中では最も大きく、幹周りが4.27メートル、樹高が23メートルあります。

境内にはタブノキの巨木もあり、幹周りが5メートルで樹高が21メートルあります。



ムクノキの実

樹木名	所在地(所有者)	胸高囲	樹高	備考
スダジイ	青木 青木神社	4 m 95	18 m	
	別所 船上神社	4 m 70	20 m	
	諏訪 諏訪神社	4 m 60	24 m	
	新山 白山神社	4 m 57	12 m	二股
	青木 青木神社	4 m 29	18 m	
	上新印 梅宮神社	4 m 05	18 m	
	諏訪 諏訪神社	4 m 02	12 m	
	諏訪 諏訪神社	3 m 93	12 m	
	奥谷 熊野神社	3 m 91	26 m	二股
	新山 白山神社	3 m 90	16 m	
	橋本 阿陀萱神社	3 m 90	14 m	二股
	尾高町 (坂口平兵衛)	3 m 88	17 m	三股
	別所 稲荷神社	3 m 83	16 m	
	青木 秋葉神社	3 m 80	17 m	二股
	別所 稲荷神社	3 m 68	15 m	
	彦名町 粟島神社	3 m 64	12 m	二股
	青木 秋葉神社	3 m 58	15 m	二股
	諏訪 諏訪神社	3 m 54	20 m	
	久米町 湊山	3 m 38	14 m	二股
	石井 八幡宮	3 m 30	15 m	
	諏訪 諏訪神社	3 m 20	12 m	
	彦名町 粟島神社	3 m 11	12 m	
	青木 青木神社	3 m 10	16 m	
	諏訪 諏訪神社	3 m 05	18 m	
	石井 八幡宮	3 m 00	14 m	
	久米町 湊山	2 m 98	19 m	
	泉 荒神宮	2 m 96	15 m	
	青木 青木神社	2 m 95	18 m	
	青木 青木神社	2 m 92	20 m	
	上新印 梅宮神社	2 m 90	17 m	
	新山 白山神社	2 m 85	16 m	
	諏訪 諏訪神社	2 m 82	14 m	
	別所 船上神社	2 m 77	18 m	
	諏訪 諏訪神社	2 m 75	20 m	
	別所 船上神社	2 m 75	18 m	
	石井 八幡宮	2 m 75	16 m	
	新山 白山神社	2 m 75	14 m	
	青木 青木神社	2 m 71	15 m	
	寺町 福源院	2 m 67	8 m	
	橋本 阿陀萱神社	2 m 60	14 m	
	泉 荒神宮	2 m 58	15 m	
	彦名町 粟島神社	2 m 55	10 m	
	石井 八幡宮	2 m 54	15 m	
	祇園町 深浦神社	2 m 52	21 m	
	大袋 宇賀神社	2 m 52	17 m	
	青木 青木神社	2 m 50	18 m	
	兼久 高良神社	2 m 50	15 m	
	新山 白山神社	2 m 50	14 m	
	萱原 荒神宮	2 m 48	21 m	
	青木 秋葉神社	2 m 45	16 m	
	陰田町 犬田神社	2 m 43	22 m	
	彦名町 粟島神社	2 m 41	12 m	
	萱原 大森不動産	2 m 40	19 m	
	新山 白山神社	2 m 40	16 m	
	石井 八幡宮	2 m 40	14 m	
	青木 青木神社	2 m 37	15 m	
	石井 八幡宮	2 m 35	12 m	
	久米町 湊山	2 m 28	14 m	
	久米町 湊山	2 m 28	11 m	
	彦名町 粟島神社	2 m 28	10 m	
	諏訪 諏訪神社	2 m 28	10 m	
	青木 青木神社	2 m 27	12 m	
	青木 青木神社	2 m 26	15 m	
	新山 白山神社	2 m 25	25 m	
	彦名町 粟島神社	2 m 25	10 m	
	彦名町 粟島神社	2 m 18	10 m	
	陰田町 犬田神社	2 m 15	22 m	
	彦名町 粟島神社	2 m 15	9 m	
	兼久 (深田酒店)	2 m 12	17 m	
	彦名町 粟島神社	2 m 11	3 m	
	祇園町 深浦神社	2 m 08	10 m	
	兼久 高良神社	2 m 03	22 m	
	兼久 高良神社	2 m 03	15 m	

樹木名	所在地(所有者)	胸高囲	樹高
ムクノキ	下安曇 門北神社	4 m 27	23 m
	河岡 (船越博之)	3 m 60	28 m
	藤津 (石橋俊夫)	3 m 56	21 m
	福万 北野神社	3 m 50	25 m
	河岡 妙本寺	3 m 50	16 m
	河岡 妙本寺	3 m 30	22 m
	尾高 御崎神社	3 m 26	23 m
	河岡 御崎神社	3 m 10	18 m
	石田 (花田明政)	2 m 87	27 m
	上新印 貴布禰神社	2 m 80	19 m
	福万 (高田允克)	2 m 77	24 m
	久米町 湊山	2 m 75	20 m
	兼久 (高田三郎)	2 m 72	26 m
	富益 (矢倉 健)	2 m 70	16 m
	尾高 (山根由平)	2 m 61	21 m
	下安曇 門北神社	2 m 60	21 m
	愛宕町 愛宕神社	2 m 60	18 m
	福万 北野神社	2 m 58	25 m
	下安曇 門北神社	2 m 56	22 m
	上福万 (佐藤 豊)	2 m 52	27 m
	久米町 湊山	2 m 48	26 m
	加茂町 加茂神社	2 m 47	15 m
	大篠津町 美保防衛施設	2 m 47	13 m
	尾高 (青木鉄雄)	2 m 40	24 m
	久米町 湊山	2 m 32	16 m
	福万 北野神社	2 m 31	30 m
	石州府 (野坂祐郷)	2 m 30	25 m
	赤井手 泉電寺	2 m 30	23 m
	内町 宇気河口神社	2 m 28	13 m
	富益 (矢倉 健)	2 m 18	14 m
	兼久 (高田三郎)	2 m 16	22 m
	上福万 (佐藤 豊)	2 m 15	26 m
	石田 (花田明政)	2 m 10	26 m
	石州府 (高橋誠治)	2 m 10	23 m
	久米町 湊山	2 m 10	14 m
	米原 米原神社	2 m 00	23 m
	石州府 (大前和己)	2 m 00	21 m
	尾高 (森安和也)	2 m 00	19 m
	大篠津町 美保防衛施設	2 m 00	12 m

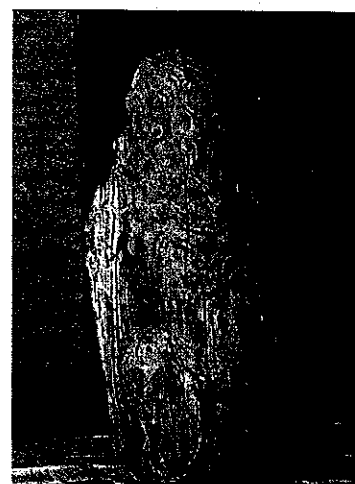
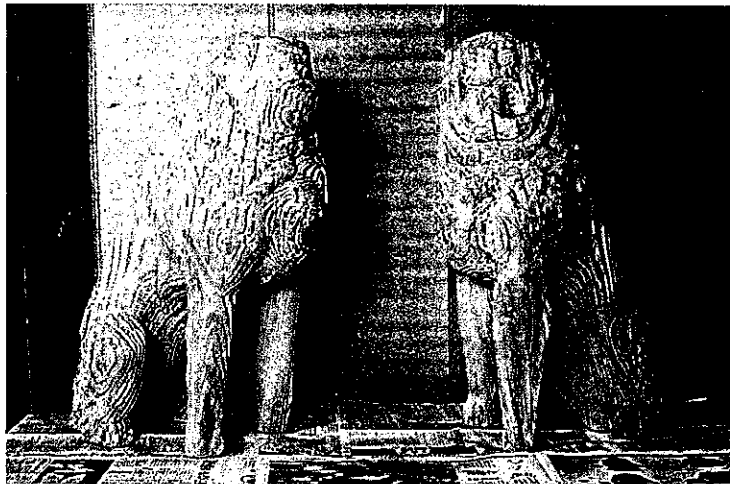
一株立ちの巨樹ベスト10

No.	樹木名	所在地(所有者)	胸高囲	樹高
1	タブノキ	蚊屋 中島神社	5 m 63	17 m
2	タブノキ	下安曇 門北神社	5 m 00	21 m
3	スダジイ	青木 青木神社	4 m 95	18 m
4	ヤマモモ	岡成 (太田 巧)	4 m 73	14 m
5	タブノキ	大袋 宇賀神社	4 m 70	21 m
6	スダジイ	別所 船上神社	4 m 70	20 m
7	スダジイ	諏訪 諏訪神社	4 m 60	24 m
8	タブノキ	福万 (中曾 亮)	4 m 41	22 m
9	スダジイ	青木 青木神社	4 m 29	18 m
10	ムクノキ	下安曇 門北神社	4 m 27	23 m

特記すべき巨樹

樹木名	所在地(所有者)	胸高囲	樹高
アオハダ	青木 青木神社	1 m 62	15 m
アカガシ	蚊屋 (塚本友一)	1 m 65	14 m
アラカン	福生 福生公園	1 m 23	13 m
ウラジロガシ	諏訪 諏訪神社	1 m 77	18 m

木造狛犬の調査



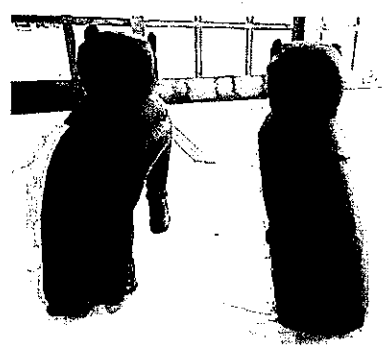
◇三輪神社



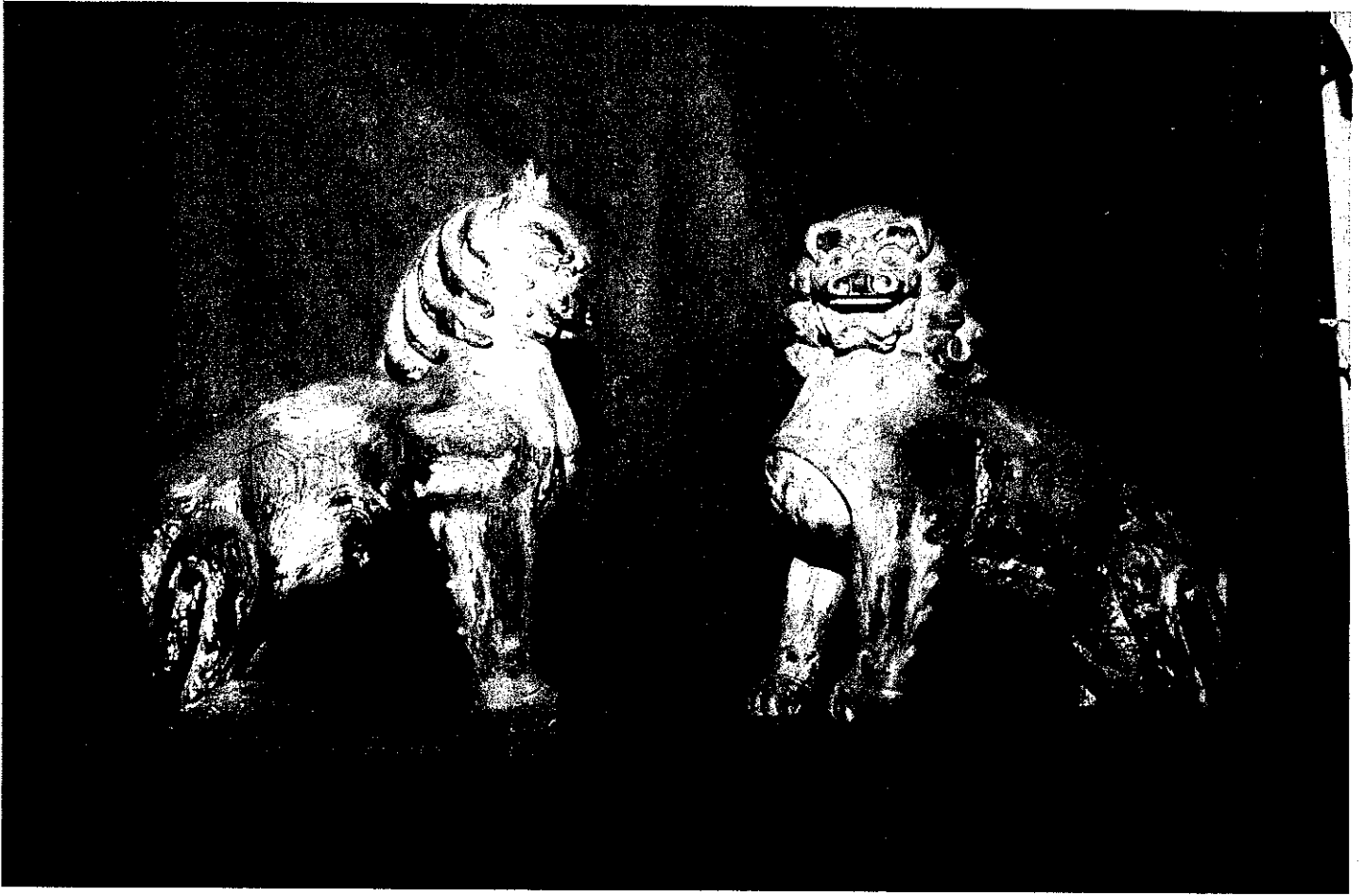
◇日吉神社



◇佐陀神社



◇新印神社



◇八幡神社

主要遺跡・施設の経緯と現状「上淀廃寺跡」

遺跡	所在地	鳥取県米子市淀江町福岡字櫻田・垣サゴ・法行
	時代	飛鳥時代（白鳳期）～平安時代（7世紀後葉～11世紀頃）
	種別	寺院跡
	内容	中心伽藍（金堂・中塔・南塔・北塔心礎）ほか付属施設、豪族居館跡
	特徴	独特の伽藍配置計画をとり、金堂跡から最古級の寺院壁画が出土。
指定	区分	国指定史跡
	年月日	H8.03.29（H17.07.14追加）
	面積	25,559.75 m ² （47筆）
	意義	山陰を代表する寺院跡の1つで、歴史・美術史において重要な遺跡。
公有化	期間	H9～11年度／H18～20年度
	事業者	淀江町／米子市
	面積	（ . %）
	事業	史跡等購入費補助金（文化庁・補助事業）
	事業費	122,372千円／約120,000千円
経緯	<p>1915(T4)年 『宇田川村史』刊行 足立正氏、寺院跡存在の記載</p> <p>1930(S5)年～ 関野貞・上田三平氏ら、出土瓦について検討</p> <p>1932(S7)年 倉光清六氏『鳥取縣郷土史』で上淀廃寺の記載</p> <p>1991(H3)年 第1～3次調査 最古級の寺院壁画が出土</p> <p>1992(H4)年～1993(H5)年 第4・5次調査 周辺施設等の確認</p> <p>1995(H7)年 『上淀廃寺（発掘調査報告書）』刊行</p> <p>1996(H8)年 史跡指定</p> <p>1997(H9)年～1999(H11)年 公有化実施</p> <p>1998(H10)年～ 隣接地開発に伴う礎敷遺構の調査（第7・9次）</p> <p>1999(H11)年～2000(H12)年 基本計画策定</p> <p>2000(H12)年 第8次調査 講堂推定地周辺の内容確認</p> <p>2001(H13)年 第10次調査 中門・金堂・南塔周辺の内容確認</p> <p>2003(H15)年～ 範囲内容確認再調査（第12・13次）</p> <p>2004(H16)年～ 環境整備着工</p> <p>2005(H17)年 追加指定</p>	
現状	<p>随時公開（第I期整備完了）</p> <p>基壇表示、説明板の設置（駐車場は公園と共通）</p>	
管理	管理者	米子市教育委員会
	経費	829千円／年（17年度予算）
整備計画	期間	H11・12基本計画／H13基本設計／H16～24第I期整備
	事業者	米子市
	事業	文化庁・補助事業
	事業費	688,297千円（うち第I期582,870円）

主要遺跡・施設の経緯と現状「向山古墳群」

遺跡	所在地	鳥取県米子市淀江町福岡字向山・瓶山・坪根垣
	時代	古墳時代中期～後期（5世紀後葉～6世紀後葉）
	種別	古墳
	内容	古墳16基（前方後円墳9基・方墳2基・円墳5基）
	特徴	約100年間に50m以上の前方後円墳が集中して築かれる。
指定	区分	国指定史跡
	年月日	S07.07.23（H11.7.13追加）
	面積	61,082.06㎡（21筆）
	意義	当期の地域の中核として、山陰を代表する首長墓群の1つである。
公有化	期間	H4年度
	事業者	淀江町
	面積	61,082.06㎡（100.0%）
	事業費	201,949千円
経緯	<p>1716(正徳6)年 石馬大明神として祭る『汗入郡川西神社御改帳』</p> <p>1764(明和6)年 『伯路紀草稿』に石馬・岩屋の記載</p> <p>1901(M34)年 坪井正五郎氏、石馬の調査</p> <p>1924(T13)年 坪井・梅原氏『因伯に於ける古墳の調査』刊行</p> <p>1932(S7)年 岩屋古墳、国史跡指定</p> <p>1935(S10)年 石馬、国重要美術品指定</p> <p>1959(S34)年 石馬、国重要文化財指定</p> <p>1964(S39)年 『福岡古墳群』刊行</p> <p>1985(S60)～1989(H元)年 発掘調査</p> <p>1989(H元)年 『向山古墳群発掘調査報告書』刊行</p> <p>1992(H4)年 公有化実施</p> <p>1995(H7)年 伯耆古代の丘公園開園（園路・説明板等整備）</p> <p>1999(H11)年 追加指定</p>	
現状	<p>公開（仮整備と位置付け）</p> <p>園路・説明版・東屋・ベンチの設置（駐車場は公園と共通）</p>	
管理	事業者	(株)白鳳
	経費	3,500千円／年（近年実績）
整備計画	期間	H11～12基本計画／実施設計・調査・工事（未定）
	事業者	米子市
	事業	文化庁・補助事業（予定）
	事業費	202,400千円（予定）

主要遺跡・施設の経緯と現状 3 「妻木晩田遺跡」

遺跡	所在地	鳥取県米子市淀江町福岡西伯郡大山町富岡・妻木・長田
	時代	弥生時代後期ほか（1世紀～4世紀前葉ほか）
	種別	集落跡
	内容	住居跡 395 基・建物跡 502 基・貯蔵穴 306 基・墳丘墓 24 基ほか古墳など
	特徴	国内最大級の弥生集落遺跡で、都市計画的な機能分化が良く残る。 （指定申請書より抜粋・一部改変）
指定	区分	国指定史跡
	年月日	H11. 12. 22
	面積	（約 1,520,000 / 1,540,000 m ² ・462 筆）
	意義	日本列島が国家へ統合する社会変革期を具体的に示す集落遺跡。 （指定申請書より抜粋・一部改変）
公有化	期間	H11～12 年度
	事業者	鳥取県
	事業	史跡等購入費補助金（文化庁・補助事業）
	事業費	約 3,000,000 千円以上
経緯	経	1990 (H2) 年 「ふるさと大山ふれあいリゾート構想」ゴルフ場選定 1992 (H4) 年 分布調査実施 1992 (H4)～1993 (H5) 試掘調査実施 1994 (H6) 年 鳥取県、事業者の開発協議に同意 1995 (H7) 年～1998 (H10) 年 発掘調査（大山調査団・淀江町教委） 1997 (H9) 年 1 月 洞ノ原墳墓群確認発表一事業者と調整協議開始 （以降、保存運動展開） 8 月 洞ノ原墳墓群、移築復元決定 12 月 妻木山地区記者発表「最大の高地性集落」 1998 (H10) 年 2 月 文化庁、現地指導（保存方法再協議） 3 月 鳥取県知事、現地視察 8 月 文化庁長官、現地視察 1999 (H11) 年 4 月 鳥取県・事業者、保存の覚書締結
	緯	
現状	初期整備一部公開（H12. 4 月 9 日から） その他埋め戻し	
管理	管理者	鳥取県
	経費	
整備計画	期間	（H11 年度、保存活用検討委員会設置 / H11～15 年度初期整備）
	事業者	鳥取県
	事業	
	事業費	